

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

奈良先端科学技術大学院大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」とし、この結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「1）先端研究を支える研究者・教育者・高度専門職業人 2）幅広い知識と創造力を持って研究成果を実用化する能力を持つ人材 3）社会の要請にあった新しい分野の研究企画・開発ができる人材を育成する」としていることについて、大学及び研究科の人材養成目的を達成するために体系的な教育課程を編成したことは、学位授与率の高水準の維持、大学院博士前期課程修了者の大部分が大学等研究機関や企業において専門性が要求される職種に就職し、就職先企業から専門的知識、論理的思考力等が高く評価されているなどの点で、優れていると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定

められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「全学教育委員会において、体系的な教育課程を編成し、専門科目の修得に加えて、融合領域あるいは関連他分野の知識の修得も可能にする」及び「複数指導教員制など、組織が責任をもつ教育指導体制を充実させる」としていることについて、全学教育委員会の下、幅広い基礎知識を学生に教育する全学共通科目を導入するなど継続的に教育課程の改善を進め、さらに、複数指導教員制や、アドバイザーコミティー制、スーパーバイザーボード制を導入して、より多角的に研究評価と指導を行い、組織が責任を持つ研究指導体制を充実させたことは、高い教育の質を維持している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「博士後期課程では、問題を自ら発見し、研究計画を立案、遂行するとともに、英語で発表できる能力を育成する」について、「テーマ提案・コンテスト型実習」、「仮想プロジェクト演習」や、4 週間の米国での語学・研究研修プログラム等、多様なプログラムを整備したことは、学生の自主的研究プロジェクトの支援による問題発見・解決や英語発表の機会の増大、及び学生自身による研究計画の立案・遂行能力や英語発表能力の向上を図っている点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「学生の経歴、進路ならびに社会のニーズに対応できる多様な履修制度を整備する」について、先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム「高度なソフトウェア技術者育成と実プロジェクト教材開発を実現する融合連携専攻の形成」等を他大学と共同で行っているなど、他大学や企業、さらには社会のニーズに応える教育コースを実施している点で、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、2 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「良好」、2

項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期目標で「学生が時間と場所を選ばずに自主学習に積極的に利用できるように、情報関連設備と機器の充実を図る。特に、電子図書館機能と全学情報ネットワーク機能をより強化する」としていることについて、大容量ファイルサーバ、計算サーバ等、最先端の情報ネットワークの整備により、最新の学術研究情報を 24 時間入手可能とする電子図書館システムによる教育研究環境を構築したこと、また、学術リポジトリを構築したことは、教育研究の成果の学外への情報発信体制の強化や、学生が時間と場所を選ばずに自主学習に活用できる環境を整備した点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「全学教育委員会は、ファカルティデベロップメントに関する討論会や講演会などを少なくとも年 1 回開催し、授業方法の改良に努める」について、研究指導に関するファカルティ・デベロップメント（FD）研修を実施していることは、あまり例のない取組である点で、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「博士後期課程の学生に対しては、21 世紀 COE プログラム、本学支援財団の支援により、国際学会での発表や海外研修を奨励する」について、21 世紀 COE プログラム等の競争的資金や支援財団の寄附金により、大学院博士後期課程学生の海外学会での発表の支援を行い、毎年度約 4 割の大学院博士後期課程学生が海外学会で発表を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。
平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が非常に優れている

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が非常に優れている」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期目標「国際的にリードする最先端科学技術の研究を目指すとともに、融合分野への積極的な取組により、新たな分野の開拓を図り、最先端の問題の探求とその解明を目指す」について、各分野の基盤的研究を深化したことにより、平成 14 年度の 21 世紀 COE プログラムに「ユビキタス統合メディアコンピューティング」、「フロンティアバイオサイエンスへの展開 - 細胞機能を支える動的分子ネットワーク -」の2件が採択され、事後評価において、研究及び人材養成の両面で期待どおり又はそれ以上の成果があったと評価された。また、グローバル COE プログラムに「フロンティア生命科学グローバルプログラム」が採択されている。さらに、学内公募により研究科の枠を超えた融合領域研究プロジェクト「形づくりのシステム生物学」等、3つの先端的融合研究を行っている。これらの成果は、最先端の問題の探求とその解明を推進した点において、優れていると判断される。
- 中期計画「研究成果を産業界へ還元する」について、知的財産の一元管理を進め、平成 17 年度は 15 件・約 2,000 万円、平成 18 年度は 30 件・約 4,800 万円、平成 19 年

度は 31 件・約 3,900 万円のライセンス等の契約実績を上げたことは、優れていると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（3 項目）のうち、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「大学の研究企画を戦略的に推進するため、総合企画会議を設け、研究企画活動を活性化する」について、総合企画会議の設置や、特任教員制度の整備等、戦略的な大学運営を可能とする組織体制を整備したことは、人材登用や資源配分について柔軟な大学運営を可能としている点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「国内外に優秀な人材を求め、世界的に優れた研究体制にする」について、各研究科に常設の教員選考会議が設置され、学長のリーダーシップの下で戦略的な教員人事を行っている点は、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが

「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「海外の優れた教育機関や研究機関との交流協定に基づき、若手研究者や学生の交流を奨励する」について、海外の教育研究機関との交流協定に基づき、若手研究者や学生の交流を奨励していることは、共同研究の実施や合同シンポジウムの開催に結びついたことにより、研究活動の活性化と国際的に通用する人材育成を促進している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「産官学連携推進本部に産学連携コーディネータを配置し、研究協力の支援や、研究成果や最新技術などの産業界に向けた情報発信、民間企業との受託研究など産官学による研究協力体制を整え、新事業開拓や大学シーズの移転のコーディネート機能を強化する。また、サテライトオフィスを産官学連携の窓口として活用する」について、企業経験者等を産官学連携のコーディネータとして配置し、学内の研究内容を把握して、技術移転を促進したこと及びサテライトオフィスを東京と大阪に設置し、産官学連携に関する情報発信や交流に活用したことは、大学の活発で効果的な産官学連携活動であり、大学による社会貢献活動を促進している点で、特色ある取組であると判断される。

② 基本的人権の擁護に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「基本的人権の擁護に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1 項目）が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「おおむね良

好」であることから判断した。

<特記すべき点>

(特色ある点)

- 中期目標「大学全体として人権尊重の基本原則を遵守し、その視点に立った施策を推進する」について、「教職員行動規範」及び「研究活動上の行動規範」を定め、一人ひとりの人権、人格及び個性を尊重するとともに、研究活動を行うすべての者の基本的認識を明らかにしている点は、特色ある取組であると判断される。